尿トラブル 大丈夫？

福島医大と本紙が講座

小島教授、早期発見を強調

泌尿器系の病気について講演する小島氏

福島医大と福島民友新聞社は27日、郡山市のビッグパレットふくしまで健康講座を開き、同大泌尿器科学講座の小島祥敬(よしゆき)教授が泌尿器系のがんなどについて講演した。

小島氏は「男性にも女性にもひそむ泌尿器科の病気」をテーマに講演。前立腺肥大症や過活動ぼうこうなどの尿に関するトラブルと、泌尿器科の3大がんとされる腎がん、ぼうこうがん、前立腺がんについて解説した。

近年急増している前立腺がんについては、2015（平成27）年に男性の新しく発症するがん患者数で、胃がんを超えて1位となったことなどを説明。早期発見の重要性を指摘した上で、血液検査で測定できるPSA（前立腺特異抗原）検査を定期的に受けることが必要だとした。また、ロボット支援手術のスペシャリストの小島氏は、前立腺がんなどに対して行われているロボット手術についても解説。開腹手術に比べ繊細な手術操作ができ、出血量が少なく、傷が小さいなどロボット手術の優位性について説明した。

講座は県民の健康増進、意識向上を目的とした福島医大、福島民友新聞社の連携協定事業の一環。「がん」をテーマとした連続講座の2回目で、1月に続き開講。約70人が聴講した。次回は秋ごろの開催を予定している。

めざせ
「健康寿命」
日本一！
FUKUSHIMA MINYU